

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	36	—	事業名	地域福祉推進事業	担当部課	福祉部福祉施策課
------	----	---	-----	----------	------	----------

基本情報	総合計画	基本方針	3	人がいきいきとつながるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	6	地域で支え合う福祉仕組みをつくる	款	3	民生費
		施策の進め方	—		項	1	社会福祉費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F2	「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	目	1	社会福祉総務費
		政策分類	1	住民の力を生かした新しい役割分担の仕組みをつくる	大事業	6	地域福祉推進事業
	その他(関係法令、要綱等)	長久手市地域福祉計画					
事業開始の背景、経緯等	平成26年9月に策定した長久手市地域福祉計画に基づき、誰もが住み慣れたまちで安心して暮らせるよう、「地域福祉の推進」のための取組を行っている。						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) ・市の福祉行政において大きな役割を担っている社会福祉協議会に対して、事業費、運営費等の補助を行う。 ・地域の支え合いの実情を把握し、地域課題の解決につなげるため支え合いマップづくりを行う。 ・市民活動に対し、スマイルポイントを付与し、地域社会へ参加するきっかけづくりとする。				
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民、事業者、市職員				
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) ・高齢者をはじめ市民が、地域の支え合いにより、地域課題を主体的に解決できるようにする。 ・高齢者をはじめ市民が、健康で自分らしく暮らせるよう地域社会への参加を促す。				
	事業を構成する事務事業	① 地域福祉推進事業	拡充	④ ながくて地域スマイルポイント事業	拡充	
	② 社会福祉協議会補助事業	拡充	⑤			
	③ 支え合いマップ策定事業	改善・見直し	⑥			

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)	千円	決算	予算			103,565	107,913
決算						98,929	99,642	
人件費(B)	千円	決算			16,040	13,451		
総コスト(A)+(B)	千円	決算			114,969	113,093		

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	A 社会福祉協議会事業達成度	%	目標	—	—	—	100	100
			実績	—	—	—	80.1	
	B 支え合いマップづくり	箇所	目標	—	4	8	10	10
			実績	—	4	8	8	
	C スマイルポイント事業登録者数	人	目標	—	—	—	500	1000
実績			—	—	—	911		
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 地域福祉活動計画に基づく事業のうち、目標を達成できている事業の割合。								
B 策定箇所数で事業の進捗状況を図ることができるため、1年間で2カ所増とする。								
C スマイルポイント事業登録者数から事業に対する認知度が判断できる。								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・支え合いマップ策定事業：近隣市町での取組はない。 ・ボランティアポイント：豊明市・日進市・東郷町で実施。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ・平成28年度は、前年度からマップ策定箇所を増やすことが出来なかった。 ・スマイルポイント事業参加登録者の実績としては、目標を上回った。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 事業本来の目的についての理解を深め、市民を巻き込んだ周知活動を行う必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) ・支え合いマップづくりを地域住民による自主運営ができるように支援をしていく。 ・地域スマイルポイント事業に関する認知度は高くないことから、事業PRを強化する必要がある。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 2025年までに、地域住民による支え合いや見守りの体制を構築する。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		地域福祉推進事業									
番号	①	事務事業名	地域福祉推進事業	款	3	項	1	目	1	大事業	6	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成26年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	平成26年度に策定した地域福祉計画を推進するため、福祉全般に関する情報収集や、地域福祉に関する先進事例の報告や専門家による講演会を開催することで、新しい福祉施策に関する調査研究や、市民に対して地域福祉への理解を深める。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	市民が地域福祉に関しての理解を深め、地域福祉の担い手となってもらう

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			3,026	1,293	2,504
		決算			2,867	1,432	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
講演会参加者	人数	目標	—	200	100	100	200
		実績	—	200	100	200	
施策事業化	数	目標	—	—	—	1	1
		実績	—	—	—	0	

4. 事務事業を取り巻く環境変化

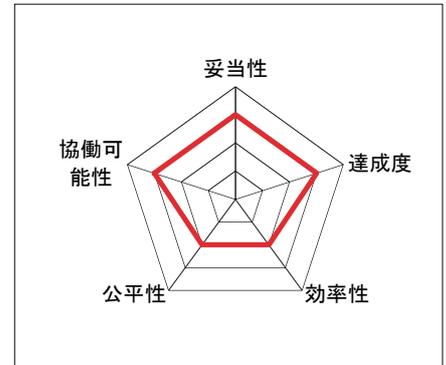
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
地域福祉への理解を深め、地域における課題を地域住民が自らの課題として主体的に捉える働きかけが必要。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
国の最新施策等情報を得て、本市の福祉施策策定に活用するため、積極的に参加する。
(何をどのような状態に改善したのか)
本事業は、地域福祉に関して市民の理解を深めること及び新施策の調査研究を目的としているため、活動指標について、講演会参加者数と施策事業化数に変更した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	2
公平性	2
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
地域福祉に関する先進事例等や最新情報の収集のため、積極的に先進地視察等を実施した。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
新しい施策を構築するには、数年間の検討を要する事業もあるため、評価方法の改善が必要。

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
平成29年度からは、次期地域福祉計画の策定のために、より多くの市民が主体的に携わり、計画に地域の意見を反映していける体制づくりが必要である。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		地域福祉推進事業									
番号	②	事務事業名	社会福祉協議会補助事業	款	3	項	1	目	1	大事業	6	中事業	2
事務事業の期間	事務事業開始年度		昭和60年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	長久手市社会福祉協議会に対し、福祉のまちづくりの実現を目指した事業の充実、地域活動の支え合いを活性化し、地域福祉の向上を図るため補助金を交付する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	社会福祉協議会の運営基盤の安定を図り、行政等と連携し、地域のネットワークづくりの推進と地域課題の解決を図る。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			97,591	100,949	102,837
		決算			94,639	93,607	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業達成度	%	目標	—	—	—	100	100
		実績	—	—	—	80.1	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

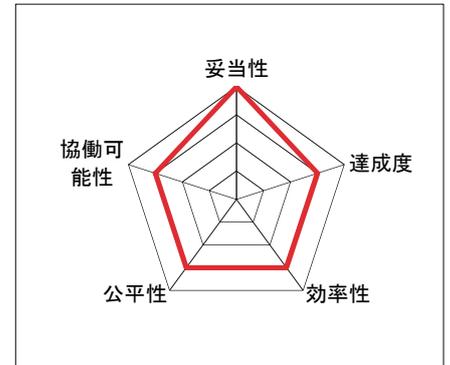
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
毎年的人员増に対して補助金の要望があるが、社会福祉協議会としての自助努力を促す必要がある。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
会員数の減少は、運営費の減少につながるため、事業内容に見合った会員数の確保ならびに自主財源確保の努力を図るよう要請する。
(何をどのような状態に改善したのか)
事業内容を把握し、適正な事業運営のための支援を行うため、事業の達成度を活動指標に変更した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
地域の支え合い活動を推進していくために必要なCSW(コミュニティ・ソーシャル・ワーカー)の増員を行った。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
適正な事業運営のため、その内容の把握、精査が必要。

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
地域課題に対応できる仕組みづくりを、地域福祉の担い手である社会福祉協議会が中心となり取り組めるよう、事業内容を精査しながら支援を行い、事業内容に見合った会員数の確保ならびに自主財源確保の努力を図るよう要請する。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		地域福祉推進事業									
番号	③	事務事業名	支え合いマップ策定事業	款	3	項	1	目	1	大事業	6	中事業	5
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成26年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	地域（50世帯程度のご近所）の住民同士で、支え合いの状況を地図上に記載することで、どの地域にどんな困っている方がいるか、どんな地域課題があるかを把握、情報共有をし、課題解決のための取組を行っている。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	地域での支え合いや、地域での見守り活動の充実を目指す。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			451	409	409
		決算			451	48	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
マップ策定	箇所	目標		4	8	10	10
		実績		4	8	6	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

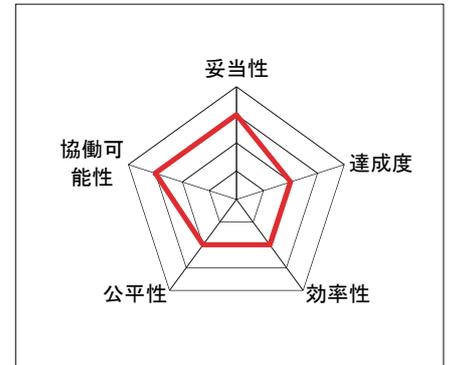
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
事業の本来の目的を再認識したうえで、地域に応じた取組をしていく必要がある。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
現在、行政と一緒に支え合いマップづくりを行っている地域が、最終的には、住民が自主的にマップづくりを行えるよう支援していく。
(何をどのような状態に改善したのか)
住民による自主的運営に向けての働きかけを行い、リーダーを担う人材が生まれた地域もある。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	2
効率性	2
公平性	2
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
現在6カ所において、地域課題の解決に向けて話し合いが継続しており、様々な取組を行っている。

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
市内全域に地域の支え合いを広げるためには、マップ策定箇所をさらに増やすことが必要。

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
地域のネットワークづくりや住民同士の支援の活動の核となる、支え合いマップづくりを広げていくとともに地域住民による自主運営ができるように支援をしていく。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		地域福祉推進事業									
番号	④	事務事業名	ながくて地域スマイルポイント事業	款	3	項	1	目	1	大事業	6	中事業	6
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成27年度		終了（予定）年度		—						

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	市内での市民活動の推進、きっかけづくりとなるよう、市民活動に参加した人に対してポイントを付与し、貯まったポイントを、交換品に換えることができるポイント事業を実施している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	高齢者をはじめ市民が、健康で自分らしく暮らせるよう地域社会へのさらなる参加を促す。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			2,497	5,262	5,701
		決算			972	4,555	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業登録者	人	目標	—	—	—	500	1,000
		実績	—	—	—	911	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

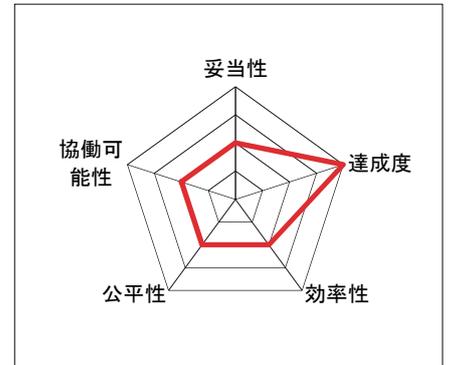
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
ポイントの対象となる活動は、市が主催する行事、福祉施設での活動のみであったが、市民団体が自主的に実施する奉仕活動も対象となるように拡大した。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
平成28年4月事業開始
(何をどのような状態に改善したのか)
平成29年1月から、対象活動の拡大を実施。

6. 評価

項目	評価
妥当性	2
達成度	4
効率性	2
公平性	2
協働可能性	2



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
ポイントを貯めるという行為が、新しい事に参加する、楽しみながら参加する、継続して参加することへのインセンティブとして効果がある。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
「ごみゼロ運動」など、多くの人に参加する行事において、事業の啓発活動を実施してきたが、未だ、平成28年4月からの事業であり、認知度は高くないことから、事業PRを更に強化していく必要がある。

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
今後、スクールガード等短時間の活動への適用方法などの検討が必要。今後は、1年間の活動内容や、事業についての改善点を把握していく。